

科目名	社会科学Ⅱ Social Science II			担当教員	三宅 岳史		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15120051	単位区分	履修単位
学習目標	社会の役割と機能は何か？新聞・ニュースで取り上げられるような現代社会の様々な問題を社会科学の観点から扱う。それによって、身近な問題から社会科学的なものの考え方などを身につけ、実際の社会に出たときにも役立てることができることを目指す。						
進め方	現代社会の課題についてテーマごとの講義（書籍や映像などを使用）をもとにして、そこで問題となっていることを考える。以下に挙げたテーマを実施予定であるが、テーマ設定は学生の要望を加味することもある。講義中心の予定であるが、テーマにより議論や発表をいれて授業を進める。自学自習時間はワークシートや提出物の課題でテーマに関する学習を進める。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 社会問題を通覧する(5) (1) 課題発見の技法 (2) 論文の読み方、書き方 (3) 日本社会の課題を発見する			ブレインストーミングやKJ法などを体験して、課題発見の方法を用いることができる。 クリティカルリーディング・文献表作成・引用・要約などのスキルを身につけ、実施できる。 政治・経済・外交・文化を含めた様々な領域で問題になっていることを総合的に説明できる。 学力観の変遷などゆとり教育に至る背景を説明できる。学力低下論争の各論者の考えを批判的に考察できる。			
	2. ゆとり教育(4) (1) ゆとり教育の背景 (2) 二つの学力観 (3) 学力低下論争 (4) これからの教育はどうあるべきか						
	[前期中間レポート]						
	3. 消費税を上げるべきか(4) (1) 消費税増税の背景 (2) 消費税増税の影響 (3) 税制の三本柱						
	4. ディベートの仕組みと実践(3) (1) ディベートの進行 (2) 議論を組み立ててみる (3) ディベートの実践			消費増税にある日本の財政問題（増大する社会保障費）や背景を説明できる。 消費税増税による影響（どのくらい財政赤字は減るのかなど）を議論できる。 ディベートを通じて、議論の組み立て方、反論の仕方、議論の評価の仕方、複眼的思考、情報収集などを体験し、身につける。			
	前期末試験						
	5. TPPと地域間統合(7) (1) TPPの背景 (2) TPPとアジア・アメリカ (3) 交渉学の基本的知識 (4) ネゴシエーションゲームの実践			TPPに参加する国々の戦略を理解した上で、食糧、知的財産、関税、金融などの各分野のメリットやデメリットを考察できる。 交渉学や合意形成の基本的な知識をベースにして国際問題を論じることができる。			
	[後期中間レポート]						
	6. 原子力発電とエネルギー問題(4) (1) 原子力のメリットとデメリット (2) 未来のエネルギー政策を考える			原子力をコストや二酸化炭素排出、事故のリスク、廃棄物など多方面から評価できる。 これからのエネルギー問題について複眼的に考察することができる。			
7. プレゼンテーション(4) (1) テーマ設定 (2) 発表							
後期末試験			問題を発見し、資料を調べ、報告し、考察を加えたものを他に分かりやすく伝えることができる。 学習教育目標との関連：(A-1) [A-1]				
試験返却(1)							
評価方法	評価は、テーマごとに課すレポートや発表（ディスカッションなどを含む）と定期試験によって行う。レポート・発表 40%，定期試験 60%の配分で評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目							
教材	テーマごとにプリントや映像教材などを用いる。資料をまとめるためのファイルを用意すること。						
備考	本授業は課題追求を中心とした授業であり、自学自習を積極的に行うなど主体的な参加が望まれる。連絡先は miytakshi@ed.kagawa-u.ac.jp にすること。						